

コリント人への後の書

第一章

一 神の御意によりてイエス・キリストの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、書をコリントに在る神の教會、ならびにアカヤ全國に在る凡ての聖徒に贈る。二 願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。三 讃むべき哉、われらの主イエス・キリストの父なる神、即ちもろもろの慈悲の父、一切の慰安の神、四 われらを凡ての患難のうちにて慰め、我等をして自ら神に慰めらるる慰安をもて、諸般の患難に居る者を慰むることを得しめ給ふ。五 そはキリストの苦難われらに溢るる如く、我らの慰安も亦キリストによりて溢るればなり。六 我ら或は患難を受くるも汝らの慰安と救とのため、或は慰安を受くるも汝らの慰安の爲にして、その慰安は汝らの中に働きて、我らが受くる如き苦難を忍ぶことを得しむるなり。七 かくて汝らが苦難に與ることく、また慰安にも與ることを知れば、汝らに對する我らの望は堅し。八 兄弟よ、我らがア ज्याにて遭ひし患難を汝らの知らざるを好まず、すなはち壓せらるること甚だしく、力耐へがたくして、生くる望を失ひ、九 心のうちに死を期するに至れり。これ己を頼まずして、死人を甦へらせ給ふ神を頼まん爲なり。一〇 神は斯かる死より我らを救

ひ給へり、また救ひ給はん。我らは後もなほ救ひ給はんことを望みて神を頼み、二 汝らも我らの爲に祈をもて助く。これ多くの人の願望によりて賜はる恩恵を、多くの人の感謝するに至らん爲なり。三 われら世に在りて殊に汝らに對し、神の清淨と眞實とをもて、また肉の智慧によらず、神の恩恵によりて行ひし事は、我らの良心の證する所にして、我らの誇なり。四 我らの書き贈ることは、汝らの讀むところ知る所他ならず。五 而して我は汝等のうち或者の既に知る如く、我らの主イエスの日に我らが汝らの誇、なんぢらが我らの誇たるを終まで知らんことを望む。一五 この確信をもて先づ汝らに到り、再び益を得させ、一六 かくて汝らを経てマケドニアに往き、マケドニアより更に復なんぢらに到り、而して汝らに送られてユダヤに往かんことを定めたり。一七 かく定めたるは浮きたる事ならんや。わが定むるところ肉によりて定め、然り然り、否々と言ふが如きこと有らんや。一八 神は眞實にて在せば、我らが汝らに對する言も、然りまた否と言ふが如きにあらず。一九 我ら即ちパウロ、シルワノ、テモテが汝らの中に傳へたる神の子キリスト・イエスは、然りまた否と言ふが如き者にあらず、然りと云ふことは彼によりて成りたるなり。二〇 神の約束は多くありとも、然りと云ふことは彼によりて成りたれば、彼によりてアアメンあり、我ら神に榮光を歸するに至る。二一 汝らと共に我らをキリストに堅くし、且われらに膏を注ぎ給ひし者は神なり。二三 神はまた我らに

印し、保證として御靈を我らの心に賜へり。三 我わが靈魂を賭けて神の證を求む、我がコリントに往くことの遅きは、汝らを見つせん爲なり。二四 されど我らは汝らの信仰を掌とる者にあらず、汝らの喜悅を助くる者なり、汝らは信仰によりて立てばなり。

第二章

一 われ再び憂をもて汝らに到らじと自ら定めたり。二 我もし汝らを憂ひしめば、我が憂ひしむる者のほかに誰か我を喜ばせんや。三 われ前に此の事を書き贈りしは、我が到らんとし、我を喜ばすべきもの、反つて我を憂ひしむる事のなからん爲にして、汝らは皆わが喜悅を喜悅とするを信するに因りてなり。四 われ大なる患難と心の悲哀とにより、多くの涙をもて汝らに書き贈れり。これ汝らを憂ひしめんとにあらず、我が汝らに對する愛の溢るるばかりなるを知らしめん爲なり。五 もし憂ひしむる人あざば、我を憂ひしむるにあらず、幾許か汝ら衆を憂ひしむるなり。(幾許かと云へるは、われ激しく責むるを好まぬ故なり)六 かかる人の多數の者より受けたる懲罰は足れり。七 されば汝ら寧ろ彼を怨し、かつ慰めよ、恐らくは其の人、甚だしき愁に沈まん。八 この故に我なんぢらの愛を彼に顯さんことを勸む。九 前に書き贈りしは、凡ての事につきて汝らが従順なりや否やを

も試み知らん爲なり。一〇 なんぢら何事にても人を怨さば、我も亦これを怨さん、われ怨したる事あらば、汝らの爲にキリストの前に怨したるなり。一一 これサタンに欺かれざらん爲なり、我等はその詭謀を知らざるにあらず。一二 我キリストの福音の爲にトロアスに到り、主われに門を開き給ひたれど、一三 我が兄弟テトスに逢はぬによりて心に平安をえず、彼處の者に別を告げてマケドニヤに往けり。一四 感謝すべきかな、神は何時にてもキリストにより、我らを執へて凱旋し、何處にても我等によりてキリストを知る知識の響をあらはし給ふ。一五 救はるる者にも亡ぶる者にも、我らは神に對してキリストの香しき響なり。一六 この人には死よりいづる響となりて死に至らしめ、かの人に生命より出づる響となりて生命に至らしむ。誰か此の任に耐へんや。一七 我らは多くの人のごとく神の言を曲げず、眞實により神による者のごとく、神の前にキリストに在りて語るなり。

第三章

一 我等ふたたび己を薦め始めんや、また或人のごとく人の推薦の書を汝らに齎し、また汝等より受くることを要せんや。二 汝らは即ち我らの書にして我らの心に録され、又すべての人に知られ、かつ讀まるるなり。三 汝らは明かに我らの職によりて書かれたるキリストの書なり。而も墨にあらで活ける神の御靈に

て録され、石碑にあらで心の肉碑に録されたるなり。四 我らはキリストにより、神に對して斯かる確信あり。五 されど己は何事をも自ら定むるに足らず、定むるに足るは神によるなり。六 神は我らを新約の役者となるに足らしめ給へり、儀文の役者にあらず、靈の役者なり。そは儀文は殺し、靈は活せばなり。七 石に彫り書されたる死の法の職にも光榮ありて、イスラエルの子等はそのやがて消ゆべきモーセの顔の光榮を見つめ得ざりし程ならんには、ハマして靈の職は光榮なからんや。九 罪を定むる職もし光榮あらんには、まして義とする職は光榮に溢れざらんや。一〇 とも光榮ありし者も更に勝れる光榮に比ぶれば、光榮なき者となれり。一 一も消ゆべき者に光榮ありしならんには、まして永存ふるものに光榮なからんや。二 我らは斯くのごとき希望を有つゆゑに、更に臆せずして言ひ、三 又モーセの如くせざるなり。彼は消ゆべき者の消えゆくをイスラエルの子らに見せぬために、面帕を顔におほいたり。一四 然れど彼らの心鈍くなれり。キリストによりて面帕の廢るべきを悟らねば、今日に至るまで舊約を讀む時その面帕なほ存れり。一五 今日に至るまでモーセの書を讀むとき、面帕は彼らの心のうへに置かれたり。一六 然れど主に歸する時、その面帕は取り除かるべし。一七 主は即ち御靈なり、主の御靈のある所には自由あり。一八 我等はみな面帕なくして、鏡に映るごとく主の榮光を見、榮光より榮光にすすみ、主たる御靈によりて主と同じ像に化するなり。

第四章

一 この故に我ら憐憫を蒙りて此の職を受けたれば、落膽せず、恥づべき隠れたる事をすて、悪巧に歩まず、神の言をみださず、眞理を顯して神の前に己を凡ての人の良心に薦むるなり。三 我らの福音おほはれ居らば、亡ぶる者に覆はれざるなり。四 この世の神は此等の不信者の心を暗まして、神の像なるキリストの榮光の福音の光を照さざらしめたり。五 我らは己の事を宣べず、ただキリスト・イエスの主たる事と、我らがイエスのために汝らの僕たる事を宣ふ。六 光、暗より照り出でよと宣ひし神は、イエス・キリストの顔にある神の榮光を知る知識を輝かしめんために、我らの心を照し給へるなり。七 我等この寶を土の器に有てり、これ優れて大なる能力の我等より出でずして、神より出づることの顯れんためなり。八 われら四方より患難を受くれども窮せず、爲ん方つくれども希望を失はず、九 責めらるれども棄てられず、倒さるれども亡びず、一〇 常にイエスの死を我らの身に負ふ。これイエスの生命の我らの身にあらはれん爲なり。二 それ我ら生ける者の常にイエスのため死に付さるるは、イエスの生命の我らの死ぬべき肉體にあらはれん爲なり。三 さらば死は我等のうちに働き、生命は汝等のうちに働くなり。一 録して『われ信するによりて語れり』とあるごとく、我等にも同じ信仰の靈あり、信するに因りて語るなり。二 四 これ主イエスを甦

へらせ給ひし者の我等をもイエスと共に甦へらせ、汝らと共に
立たしめ給ふことを我ら知ればなり。一五凡ての事は汝らの益
なり。これ多くの人によりて御恵の増し加はり、感謝いや増り
て神の榮光の顯れん爲なり。一六この故に我らは落膽せず、我ら
が外なる人は壞るれども、内なる人は日々々に新なり。一七それ我
らを受くる暫くの輕き患難は、極めて大なる永遠の重き光榮を
得しむるなり。一八我らの顧みる所は見ゆるものにあらず見え
ぬものなればなり。見ゆるものは暫時にして、見えぬものは
永遠に至るなり。

第五章

一我らは知る、我らの幕屋なる地上の家、壞るれば、神の賜ふ
建造物、すなはち天にある、手にて造らぬ、永遠の家あることを。
二我等はその幕屋にありて歎き、天より賜ふ住所をこの上に著
んことを切に望む。三之を著るときは裸に於てある事なからん。四
我等この幕屋にありて重荷を負へる如くに歎く、之を脱がんと
にあらず、此の上に著んことを欲すればなり。これ死ぬべき者
の生命に吞まれん爲なり。五我らを此の事に適ふものとなし、そ
の證として御靈を賜ひし者は神なり。六この故に我らは常に心
強し、かつ身に居るうちは主より離れ居るを知る、七見ゆる所に
よらず、信仰によりて歩めばなり。八斯く心強し、願ふところは

寧ろ身を離れて主と偕に居らんことなり。九然れば身に居るも
身を離るるも、ただ御心に適はんことを力む。一〇我等はみな必
ずキリストの審判の座の前にあらはれ、善にもあれ惡にもあれ、
各人その身になしたる事に隨ひて報を受くべければなり。一一
斯く主の畏るべきを知るによりて人々に説き勸む。われら既に
神に知られたり、亦なんぢらの良心にも知られたりと思ふ。一二
我等は再び己を汝らに薦むるにあらず、ただ我等をもて誇とす
る機を汝らに與へ、心によらず外貌によりて誇る人々に答ふる
ことを得させんとするなり。一三我等もし心狂へるならば、神の
ため、心慥ならば、汝らの爲なり。一四キリストの愛われら
に迫れり。我ら思ふに、一人すべての人に代りて死にたれば、凡
ての人すでに死にたるなり。一五その凡ての人に代りて死に給
ひしは、生ける人の最早おのれの爲に生きず、己に代り死にて
甦へり給ひし者のために、生きん爲なり。一六されば今より後わ
れ肉によりて人を知るまじ、曾て肉によりてキリストを知りし
が、今より後は斯くの如くに知ることをせじ。一七人もしキリス
トに在らば新に造られたる者なり、古きは既に過ぎ去り、視よ、
新しくなりたり。一八これらの事はみな神より出づ、神はキリス
トによりて我らを己と和がしめ、かつ和がしむる職を我らに授
け給へり。一九即ち神はキリストに在りて世を己と和がしめ、そ
の罪を之に負はせず、かつ和がしむる言を我らに委ね給へり。二
〇されば我等はキリストの使者たり、恰も神の我等によりて汝

らを勧め給ふがごとし。我等キリストに代りて願ふ、なんぢら神を和げ。二神は罪を知り給はざりし者を我らの代に罪となし給へり、これ我らが彼に在りて神の義となるを得んためなり。

第六章

一我らは神とともに働く者なれば、神の恩恵を汝らが徒らに受けざらんことを更に勸む。二神いひ給ふ『われ恵の時に汝に聴き、救の日に汝を助けたり』と。視よ、今は恵のとき、視よ、今は救の日なり。三我等この職の誇られぬ爲に何事にも人を躓かせず。四反つて凡ての事において神の役者のごとく己をあらはす、即ち患難にも、窮乏にも、苦難にも、五打たるるにも、獄に入るにも、騒擾にも、勞動にも、眠らぬにも、斷食にも、大なる忍耐を用ひ、六また廉潔と知識と寛容と仁慈と聖靈と虚偽なき愛と、七眞の言と神の能力と左右に持ちたる義の武器とにより、八また光榮と恥辱と惡名と美名とによりて表す。我らは人を惑す者の如くなれども眞、九人に知られぬ者の如くなれども人に知られ、死なんとする者の如くなれども、視よ、生ける者懲ざる者の如くなれども殺されず、一〇憂ふる者の如くなれども常に喜び、貧しき者の如くなれども多くの人を富ませ、何も有たぬ者の如くなれども凡ての物を有てり。一一コリント人よ、我らの口は汝らに向ひて開け、我らの心は廣くなれり。一二汝らの

狭くせらるるは我らに因るにあらず、反つて己が心に因るなり。二三汝らも心を廣くして我に報をせよ。(我わが子に對する如く言ふなり)一四不信者と軻を同じうすな、釣合はぬなり、義と不義と何の干與かあらん、光と暗と何の交際かあらん。一五キリストとペリアルと何の調和かあらん、信者と不信者と何の關係かあらん。一六神の宮と偶像と何の一致かあらん、我らは活ける神の宮なり、即ち神の言ひ給ひしが如し。曰く『われ彼らの中に住み、また歩まん。我かれらの神となり、彼等わが民とならん』と。一七この故に『主いひ給ふ、『汝等かれらの中より出で、之を離れ、穢れたる者に觸るなかれ』と。』さらば我なんぢらを受け、一八われ汝らの父となり、汝等わが息子むすめとならん』と、全能の主いひ給ふ』とあるなり。

第七章

一されば愛する者よ、我らかかる約束を得たれば、肉と靈との汚穢より全く己を潔め、神を畏れてその清潔を成就すべし。二我らを受け容れよ、われら誰にも不義をなしし事なく、誰をも害ひし事なく、誰をも掠めし事なし。三わが斯く言ふは、汝らを咎めんとにあらず、そは我が既に言へる如く、汝らは我らの心にありて、共に死に共に生くればなり。四我なんぢらを信すること大なり、また汝等をもて誇とすること大なり、我は慰安にみち、

凡ての患難の中にも喜悅あふるるなり。五マケドニヤに到りしとき、我らの身はなほ聊かも平安を得ずして、様々の患難に遭ひ、外には分争、内には恐懼ありき。六然れど哀なる者を慰むる神は、テトスの来るによりて我らを慰め給へり。七唯その来るに因りてのみならず、彼が汝らによりて得たる慰安をもて慰め給へり。即ち汝らの我を慕ふこと、歎くこと、我に對して熱心なることを我らに告ぐるによりて、我ますます喜べり。ハわれ書をもて汝らを憂ひしめたれども悔いせず、その書の汝らを暫く憂ひしめしを見て、前には悔いたれども今は喜ぶ。九わが喜ぶは汝らの憂ひしが故にあらず、憂ひて悔改に至りし故なり。汝らは神に従ひて憂ひたれば、我等より聊かも損を受けざりき。一〇それ神にしたがふ憂は、悔なきの救を得るの悔改を生じ、世の憂は死を生ず。一一視よ、汝らが神に従ひて憂ひしことは、如何ばかりの奮勵・辯明・憤激・恐懼・愛慕・熱心・罪を責むる心などを汝らの中に生じたりしかを。汝等かの事に就きては全く潔きことを表せり。一二されば前に書を汝らに書き贈りしも、不義をなしたる人の爲にあらず、また不義を受けたり人の爲にあらず、我らに對する汝らの奮勵の、神の前にて汝らに顯れん爲なり。一三この故に我らに慰安を得たり。慰安を得たる上にテトスの喜悅によりて更に喜べり。そは彼の心なんぢら一同によりて安んぜられたればなり。一四われ曩に彼の前に汝らに就きて誇りたれど恥づることなし、我らが汝らに語りし事のみな

誠實なりし如く、テトスの前に誇りし事もまた誠實となれり。一五彼は汝等みな從順にして畏れ戦き、己を迎へしことを思ひ出して、心を汝らに寄すること増々深し。一六われ凡ての事に汝らに就きて心強きを喜ぶ。

第八章

一兄弟よ、我らマケドニヤの諸教會に賜ひたる神の恩恵を汝らに知らず。二即ち患難の大なる試練のうちに彼らの喜悅あふれ、又その甚だしき貧窮は吝みなく施す富の溢るるに至れり。三四われ證す、彼らは聖徒に事ふることに與る恵を切に我らに請ひ求め、みづから進みて、力に應じ、否これに過ぎて施濟をなせり。五我らの望のほかに先づ己を主にささげ、神の御意によりて我らにも身を委ねたり。六されば我らはテトスが前に此の慈惠のことを汝らの中に始めたれば、又これを成就せんことを勧めたり。七汝等ももるもの事、すなはち信仰に、言下、知識に、凡ての奮勵に、また我らに對する愛に富めるごとく、此の慈惠にも富むべし。ハわれ斯く言ふは汝らに命ずるにあらず、ただ他の人の奮勵によりて、汝らの愛の眞實を試みん爲なり。九汝ら是我らの主イエス・キリストの恩恵を知る。即ち富める者にて在したれど、汝等のために貧しき者となり給へり。これ汝らが彼の貧窮によりて富める者とならん爲なり。一〇施濟のこ

とに就きて我ただ意見を述べ、これは汝らの益なり。汝らは此の事をただに一年前より人に先だちて行ひしのみならず、又これを願ひ始めし事なれば、二今これを成し遂げよ、汝らが心より願ひしごとく、所有に應じて成し遂げよ。二人もし志望あらば、其の有ため所に由るにあらず、其の有つ所に由りて嘉納せらるるなり。三これ他の人を安くして汝らを苦しめんとにあらず、均しくせんとするなり。四すなはち今なんぢらの餘るところは彼らの足らざるを補ひ、後また彼らの餘る所は汝らの足らざるを補ひて、均しくなるに至らんためなり。五録して『多く集めし者にも餘る所なく、少く集めし者にも足らざる所なかりき』とあるが如し。一六汝らに對する同じ熱心をテトスの心にも賜へる神に感謝す。一七彼はただに勸を容れしのみならず、甚だ熱心にして、自ら進んで汝らに往くなり。一八我等また彼とともに一人の兄弟を遣す。この人は福音をもて諸教會のうちに響を得たる上に、一九主の榮光と我らの志望とを顯さんがために、掌どれる此の慈恵に就きて、諸教會より我らの道伴として選ばれたる者なり。二〇彼を遣すは、此の大なる贖金を掌どるに、人に咎めらるる事を避けんためなり。二一それは主の前のみならず、人の前にも善からんことを慮ばかりてなり。二二また一人の兄弟を彼らと共につかはず、我らは多くの事につきて屢次かれの熱心なるを認めたり。而して今は彼が汝らを深く信するに因りて、その熱心の更に加はるを認む。二三テトスのことを言へ

ば、我が友なり、汝らに對して我が同勞者なり。この兄弟たちの事をいへば、彼らは諸教會の使なり、キリストの榮光なり。二四されば汝らの愛と我らが汝らに就きて誇れる事との證を、諸教會の前にて彼らに顯せ。

第九章

一聖徒に施すことに就きては汝らに書きおくるに及ばず、二我なんぢらの志望あるを知ればなり。その志望につき汝らの事をマケドニヤ人に誇りて、アカヤは既に一年前に準備をなせりと云へり。かくて汝らの熱心は多くの人を勵ましたり。三されどわれ兄弟たちを遣すは、我が言ひしごとく汝らに準備をなさしめ、之につきて我らの誇りし事の空しくならざらん爲なり。四もしマケドニヤ人われと共に來りて汝らの準備なきを見れば、汝らは言ふに及ばず、我らも確信せしによりて恐らくは恥を受けん。五この故に兄弟たちを勸めて、先づ汝らに往かしめ、曩に汝らが約束したる慈恵を、音むが如くせずして、恵む心よりせん爲に預じめ調へしむるは、必要のことと思へり。六それ少く播く者は少く刈り、多く播く者は多く刈るべし。七おのおの音むことなく、強ひてすることなく、その心に定めし如くせよ。神は喜びて與ふる人を愛し給へばなり。八神は汝等をして常に凡ての物に足らざることなく、凡ての善き業に溢れしめんために、凡ての

恩恵を溢るるばかり與ふることを得給ふなり。九録して『彼は散らして貧しき者に與へたり。その正義は永遠に存らん』とある如し。一〇播く人に種と食するパンとを與ふる者は、汝らにも種をあたへ、且これを殖し、また汝らの義の果を増し給ふべし。一汝らは一切に富みて吝みなく施すことを得、かくて我らの事により、人々神に感謝するに至るなり。二三此の施濟の務は、ただに聖徒の窮乏を補ふのみならず、充ち溢れて神に對する感謝を多からしむ。二三即ち彼らは此の務を證據として、汝らがキリストの福音に對する言明に順ふことと、彼らにも凡ての人に吝みなく施すこととに就きて、神に榮光を歸し、一四かつ神の汝らに給ひし優れたる恩恵により、汝らを慕ひて汝等のために祈らん。一五言ひ盡しがたき神の賜物につきて感謝す。

第一〇章

一汝らに對し面前にては謙だり、離れるては勇ましき我パウロ、自らキリストの柔和と寛容とをもて汝らに勸む。二我らを肉に従ひて歩むごとく思ふ者あれば、斯かる者に對しては雄々しくせんと思へど、願ふ所は我が汝らに逢ふとき斯く勇ましくせざらん事なり。三我らは肉にありて歩めども、肉に従ひて戦はず。四それ我らの戦争の武器は肉に屬するにあらず、神の前には城砦を破るほどの能力あり、我等はもろもろの論説を破り、五神

の示教に逆ひて建てたる凡ての櫓を毀ち、凡ての念を虜にしてキリストに服はしむ。六且なんぢらの從順の全くならん時、すべての不從順を罰せんと覺悟せり。七汝らは外貌のみを見る、若し人みづからキリストに屬する者と信ぜば、己がキリストに屬する如く、我らも亦キリストに屬する者なることを更に考ふべし。八假令われ汝らを破る爲ならずして建つる爲に、主が我らに賜ひたる權威につきて誇ること稍過ぐとも恥とはならじ。九われ書をもて汝らを嚇すと思はざれ。一〇彼らは言ふ『その書は重くかつ強し、その逢ふときの容貌は弱く、言は鄙し』と。一一斯くのごとき人は思ふべし。我らが離れる時おくる書の言のごとく、逢ふときの行爲も亦然るを。一二我らは己を警むる人と敢へて並び、また較ぶる事をせず、彼らは己によりて己を度り、己をもて己に較ぶれば智なき者なり。一三我らは範圍を踰えて誇らず、神の我らに分ち賜ひたる範圍にしたがひて誇らん。その範圍は汝らに及べり。一四汝らに及ばぬ者のごとく範圍を踰えて身を延すに非ず、キリストの福音を傳へて汝らにまで到れるなり。一五我らは己が範圍を踰えて他の人の勞を誇らず、唯なんぢらの信仰の彌増すにより、我らの範圍に循ひて汝らのうち更に大なることを望む。一六これ他の人の範圍に既に備りたるものを誇らず、汝らを踰えて外の處に福音を宣傳へん爲なり。一七誇る者は主によりて誇るべし。一八そは是とせらるるは己を警むる者にあらず、主の警め給ふ者なればなり。

第一章

一願はくは汝等わが少しの愚を忍ばんことを。請ふ我を忍べ。
二われ神の熱心をもて汝らを慕ふ、われ汝らを潔き處女として
一人の夫なるキリストに獻げんとて、之に許嫁したればなり。三
されど我が忍るるは、蛇の悪巧によりてエバの惑されし如く、
汝らの心害はれてキリストに對する眞心と貞操とを失はん事
なり。四もし人きたりて我らの未だ宣べざる他のイエスを宣ぶ
時、また汝らが未だ受けざる他の靈を受け、未だ受け容れざる
他の福音を受くるときは、汝ら能く之を忍ばん。五我は何事にも
かの大使徒たちに劣らずと思ふ。六われ言に拙けれども知識
には然らず、凡ての事にて全く之を汝らに顯せり。七われ汝らを
高つせんために自己を卑し、價なくして神の福音を傳へたる
は罪なりや。八我は他の教會より奪ひ取り、その俸給をもて汝
らに事へたり。九又なんぢらの中に在りて乏しかりしとき、誰を
も煩はさず、マケドニヤより來りし兄弟たち我が窮乏を補へ
り。斯く凡ての事に汝らを煩はすまじと慎みたるが、此の後も
なほ慎まん。一〇我に在るキリストの誠實によりて言ふ、我この
誇をアカヤの地方にて阻まるる事あらじ。一一これ何故ぞ、汝ら
を愛せぬに因るか、神は知りたまふ。一二我わが行ふ所をなほ行
はん、これ機會をつかがぶ者の機會を斷ち、彼等をしてその誇
所につき我らの如くならしめん爲なり。一三かくの如きは偽

使徒また詭計の勞動人にして、己をキリストの使徒に扮へる者
どもなり。一四これ珍しき事にあらず、サタンも己を光の御使に
扮へば、一五その役者らが義の役者のごとく扮ふは大事にはあ
らず、彼等の終局はその業に適ふべし。一六われ復いはん、誰も我
を愚と思ふな。もし然おもふとも、少しく誇る機を我にも得さ
せん爲に、愚なる者として受け容れよ。一七今いふ所は主により
て言ふにあらず、愚なる者として大膽に誇りて言ふなり。一八多
くの人、肉によりて誇れば、我も誇るべし。一九汝らは智き者な
れば喜びて愚なる者を忍ぶなり。二〇人もし汝らを奴隸とすと
も、食ひ盡すとも、掠めるとも、驕るとも、顔を打つとも、汝
らは之を忍ぶ。二一われ恥ぢて言ふ、我らは弱き者の如くなり
き。されど人の雄々しき所は我もまた雄々し、われ愚にも斯く
言ふなり。二二彼らへブル人なるか、我も然り、彼らイスラエル
人なるか、我も然り、彼らアブラハムの裔なるか、我も然り。二
三彼らキリストの役者なるか、われ狂へる如く言ふ、我はなほ勝
れり。わが勞は更におほく、獄に入れられしこと更に多く、鞭
うたれしこと更に夥たしく、死に瀕みたりしこと屢次なりき。二
四ユダヤ人より四十に一つ足らぬ鞭を受けしこと五度、二五谷に
て打たれしこと三たび、石にて打たれしこと一たび、破船に遭ひ
しこと三度にして、一晝夜海にありき。二六しばしば旅行して河
の難、盜賊の難、同族の難、異邦人の難、市中の難、荒野の難、
海上の難、僞兄弟の難にあひ、二七勞し、苦しみ、しばしば眠ら

ず、飢象渴き、しばしば斷食し、凍え、裸なりき。二八ここに擧げざる事もあるに、なほ日々われに迫る諸教會の心勞あり。二九誰か弱りて我弱らざらんや、誰か躓きて我燃えざらんや。三〇もし誇るべくは、我が弱き所につきて誇らん。三一永遠に讃むべき者、すなはち主イエスの神また父は、我が僞らざるを知り給ふ。三二ダマスコにてアレタ王の下にある總督、われを捕へんとてダマスコ人の町を守りたれば、三三我は籠にて窓より石垣傳ひに縋り下されて其の手を脱れたり。

第二章

一わが誇るは益なしと雖も止むを得ざるなり、茲に主の顯示と默示とに及ばん。二我はキリストにある一人の人を知る。この人、十四年前に第三の天にまで取去られたり(肉體にてか、われ知らず、肉體を離れてか、われ知らず、神しり給ふ)三われ斯くのごとき人を知る(肉體にてか、肉體の外にてか、われ知らず、神しり給ふ)四かれパラダイスに取去られて、言ひ得ざる言人の語るまじき言を聞けり。五われ斯くのごとき人のために誇らん、されど我が爲には弱き事のほか誇るまじ。六もし自ら誇るとも我が言ふところ誠實なれば、愚なる者とならじ。されど之を寵めん。恐らくは人の我を見われに聞くところに過ぎて、我を思ふことあらん。七我は我が蒙りたる默示の鴻大なるによりて

高ぶることのなからん爲に、肉體に一つの刺を與へらる、即ち高ぶることなからん爲に我を撃つサタンの使なり。ハわれがために三度まで之を去らしめ給はんことを主に求めたるに、九言ひたまふ、わが恩恵なんちに足れり、わが能力は弱きうちに全うせらるればなり。さればキリストの能力の我を庇はんために、寧ろ大に喜びて我が微弱を誇らん。一〇この故に我はキリストの爲に微弱・恥辱・難難・迫害・苦難に遭ふことを喜ぶ、そは我よわき時に強ければなり。二われ汝らに強ひられて愚になれり、我は汝らに警めらるべかりしなり。我は數ふるに足らぬ者なれども、何事にもかの大使徒たちに劣らざりしなり。一二我は徴と不思議と能力ある業とを行ひ、大なる忍耐を用ひて汝等のうちに使徒の徴をなせり。三なんぢら他の教會に何の劣る所かある、唯わが汝らを煩はさざりし事のみならずや、此の不義は請ふ我に恕せ。四視よ、茲に三度なんぢらに到らんとして準備したれど、尚なんぢらを煩はすまじ。我は汝らの所有を求めず、ただ汝らを求む。それ子は親のために貯ふべきにあらず、親は子のために貯ふべきなり。五我は大に喜びて汝らの靈魂のために物を費し、また身をも費さん。我なんぢらをもく愛するによりて、汝ら我を少く愛するか。六或人いはん、我なんぢらを煩はさざりしも、狡猾にして詭計をもて取りしなりと。七然れど我なんぢらに遣しし者のうちの誰によりて汝らを掠めしや。一八我テトスを勧めて汝らに遣し、これと共にかの兄弟を遣

せり、テトスは汝らを掠めしや。我らは同じ御靈によりて歩み、同じ足跡を蹈みしにあらすや。一九 汝らは夙より我等なんぢらに對して辯明すと思ひしならん。されど我らはキリストに在りて神の前にて語る。愛する者よ、これ皆なんぢらの徳を建てん爲なり。二〇 わが到りて汝らを見ん時、わが望の如くならす、汝らが我を見んとき、亦なんぢらの望の如くならざらんことを恐れ、かつ分争・嫉妬・憤恚・徒黨・誹謗・讒言・驕傲・騷亂などの有らんことを恐る。二一 また重ねて到らん時、わが神われを汝等のまへにて辱しめ、且おほくの人の、前に罪を犯して行ひし不潔と姦淫と好色とを悔改めざるを悲しましめ給ふことあらん乎と恐る。

第二章

一 今われ三度なんぢらに到らんとす、二三の證人の口によりて凡てのこと懺めらるべし。二 われ既に告げたれど、今離れをりて、二度なんぢらに逢ひし時のごとく、前に罪を犯したる者とその他の凡ての人々とに預じめ告ぐ、われ復いたらば決して宥さじ。三 汝らはキリストの我にありて語りたまふ證據を求むればなり。キリストは汝らに對ひて弱からず、汝等のうちに強し。四 微弱によりて十字架に釘けられ給ひたれど、神の能力によりて生き給へばなり。我らもキリストに在りて弱き者なれど、汝

らに向ふ神の能力によりて彼と共に生きん。五 なんぢら信仰に居るや否や、みづから試み自ら驗しみや。汝らみづから知らざらんや、若し棄てらるる者ならずば、イエス・キリストの汝らの中に在す事を、六 我は我らの棄てらるる者ならぬを汝らの知らんことを望む。七 我らは汝らの少しにて悪を行はざらんことを神に祈る。これ我らの是とせらるるを願さん爲にあらず、よし我らは棄てらるる者の如くなるとも、汝らの善を行はん爲なり。八 我らは眞理に逆ひて能力なく、眞理のためには能力あり。九 われら弱くして汝らの強きことを喜ぶ、また之に就きて祈るは、汝らの全くならん事なり。一〇 われ離れ居りて此等のことを書き贈るは、汝らに逢ふとき、主の破る爲ならずして建つる爲に我に賜ひたる權威に隨ひて嚴しくせざらん爲なり。一一 終に言はん、兄弟よ、汝ら喜べ、全くなれ、慰安を受けよ、心を一つにせよ、睦み親しめ、然らば愛と平和との神なんぢらと偕に在さん。一二 潔き接吻をもて相互に安否を問へ、一三 凡ての聖徒なんぢらに安否を問ふ。一四 願はくは主イエス・キリストの恩恵・神の愛・聖靈の交感、なんぢら凡ての者と偕にあらんことを。